

逗子第一運動公園アダプトプログラム／植樹地保全作業

(株) 研 進 出縄貴史

掲題について、下記の通り、本年度第3回目（累計8回目）の作業を行いましたので報告します。

記

1. 日時：2025年6月18日（水）10：00～12：00（2.00時間）
2. 場所：逗子第一運動公園植樹地（2014年10月、宮脇方式により1,000本の苗木を植樹した場所）及びその外側の通路沿いの植栽地
3. 参加者：湘南の風mai!えるしい4名、研進2名、合計6名
4. 作業：植樹地側の水路沿い（林縁部）の植樹（補植）
5. 植樹した樹種（2～4年生ポット苗）：潜在自然植生種の低木中心に6種類60本
⇒ シャリンバイ30本、ナンテン、ヤツデ、マンリョウ、ヤマブキ、ウバメガシ各6本、合計60本（何れも進和学園が栽培した苗木）
6. 提供資材：腐葉土（進和学園「やえくぼ」製）中バケツ3個分



前回（6月13日）、水路沿いに杭を打ち込み地盤造りを行った場所に、幅50cm程度で带状に苗木を密植混植した。

森の「林縁部」を構成する混垣植栽で、今後、植樹地の視界を確保しつつ、公園の景観も踏まえて腰高で剪定して保全管理する予定である。



シャリンバイ、ヤマブキは、花を楽しめる。ナンテンは、常緑樹であるが赤や黄色に葉が変色して美しい。マンリョウやナンテンは、赤い実も付いて目を惹く。ウバメガシは、低木ではなく備長炭の原料として有名、刈り込みに強く垣根の植栽として重宝な存在である。ヤツデは、日陰でも育つ自然の森の低層を構成する代表種である。



宮脇方式の混植・密植において、通常は植樹した苗木の根元に稲わらによるマルチングを行うが、今回は、現場でこれまでの作業にて確保しておいた剪定枝や刈り取った雑草をマルチング材として活用することとした。

以上